

多くの受賞歴を胸に、

珠玉の一粒と真摯に向き合う

やま だ あきのり
山田 明德

(38歳)

— 奈良市山町 —



大切に育まれ、収穫を待つ山田さんの「古都華」

**古都華とかおり野
タイプの違うイチゴを
バランス良く**

美しい形状をもつ「古都華」と、実の大きさが特徴の「かおり野」。性質も収穫量もまったく違う2種類のイチゴを栽培する「めいとく農園」。計10棟のビニールハウスを切り盛りするのが山田さんだ。ビニールハウスに一步足を踏み入れると、入口付近に設置された大きな暖房機が目に入る。繊細な古都華を寒さから守るため、夜間の暖房は欠かせない。ハウスの奥に設置された炭酸ガス発生機は、



最新の設備が整えられた古都華のハウス

**農業をやりたい
あきらめない姿勢で
新たな道を開拓**

水産学部在籍し、高知県で過ごした大学時代。ナスやシヨウガを育てる農家でのアルバイト経験がきっかけで、農業への興味が生まれた。卒業後は、就農に向けての資金づくりと流通の仕組みを学ぶべく、大阪の東部市場にある仲卸の会社に就職。いざ夢をかなえるため27歳の10月に退職、その年の暮れに足を運んだのが「新農業者フェア」だった。数あるブー



病気に強く、大きな実が特徴の「かおり野」

がりのある「北部農林振興事務所」を紹介してもらう。「研修生として受け入れてもいいよ」と言ってくれたのが、今なお師匠として尊敬してやまない萩原健さんだった。翌年の3月から週に5日、大阪から奈良へと通う生活が始まった。1年間の研修を終えた頃、高齢のためイチゴづくりを引退する農家のビニールハウスを譲り受けることに。人と

**就農6年目で
「農林水産大臣賞」を受賞**

奈良県内の農産物計1,000点の中から選ばれる「農林水産大臣賞」。イチゴだけではなく大根や白菜など、多岐にわたる農産物が対象となる。山田さんの「かおり野」が栄えある賞に輝いたのは



農林水産大臣賞の授賞式（平成26年12月）

**新しい品種も視野に入れ
経験値を上げていきたい**

平成26年、就農6年目の時だった。知事賞、市長賞、近畿農政局長賞と毎年複数個を受賞してきた。その数30個ほどと庄巻で、自宅の一室には賞状やトロフィーがズラリと並べられている。糖度、形、色味、バランス、それからハウス全体の管理状態。それぞれの賞ごとに審査基準はさまざまという。ひとつの実だけが完璧さでもあつても受賞には至らない。賞をとるたびに「きちんとしたものを作ろう」という責任感が増し、身の引き締まる思いだそう。

イチゴ生産者グループ「古都華カンパニー」の一員でもある山田さん。東京の老舗百貨店のイベントに共同出展したり、ふるさと納税で奈良市の返礼品になったりと、奈良県ブランドの新しい可能性を広げる日々。中まで赤く抜群のツヤ感がある「古都華」は、ケーキや贈答用に。実が大きく収穫量も多い「かおり野」は、病気に強く頼もしい存在。互いに補い合ってくれるこの2種が「バランスが良くて自分に合っていると思う」と山田さん。とはいえ、新しい品種はどんどん生まれている。「今以上のイチゴに出会えた時はぜひトライしてみたい」とやわらかな笑顔で語ってくれた。



高設栽培と土耕栽培で2品種のイチゴを手がける



広々としたハウスが計10棟の「めいとく農園」